



看護部通信



2019年10月

熱戦を繰り広げるラグビーワールドカップ（W杯）日本大会。課題克服のため「個の力を強化」し、「チーム力を高め」、開幕から3連勝でA組首位に立った日本代表！ チームが一丸となって挑むプレイスタイルは、専門的分野に特化したリハセンのチーム医療にも似ていませんか？ この勢いを借りて私たちも頑張っていきましょう。（看護師長会）

「カンフォータブルケア」をご存知ですか？

2病棟 K

「カンフォータブルケア」とは、認知症患者が心地よいと感じる刺激を用いてケアすることで、認知症による周辺症状の軽減を図るケア技術です。

このケアは10項目の基本技術からなりますが、その中の一つに「常に笑顔で接する」があります。この“笑顔”とは看護師が口を開け、歯を見せて「ニコッ」と笑うことです。「ニコ」ではなく「ニコッ」です。認知症患者さんは、視力低下や注意力や関心の低下などにより、「ニコ」で微笑んでも笑顔と認識できないことがあるそうです。今までの自分を振り返ると、自分では笑っているつもりでも、患者さんには伝わっていなかったのかな？と考えさせられました。この“笑顔”をはじめ、他の技術を適切に使用することによって、スタッフが抱きやすい認知症患者さんに対する苛立ちや腹立たしさの「陰性感情」が生じにくくなるそうです。

認知症患者さんをより安心して過ごせる環境にしたいと思い、「カンフォータブルケア」について只今看護研究に取り組んでいます！



笑顔は「こころの窓」とも言われます。患者に安心感を与える笑顔は、最強の技術ですね。

「環境整備を頑張っています」

2病棟 H

2病棟に配属になって驚いたことは、環境整備にとっても力を入れていることでした。毎週火曜日には、全員で病棟内を隅々まで丁寧に拭いて回ります。「家でもこんなにやってない。」など言いながら汗をかいて行っています。日勤の終わりには、感染予防の為に環境整備を行っています。異動してきたばかりの頃はあまりできていませんでしたが、主査研修の取り組みとして環境整備を行うことになり、最近では率先して行うようになりました。

日勤の終わりに病棟内を拭いて回ると、患者さんの側にいる機会が増え観察ができるとともに、感謝されたり良いコミュニケーションが持てたりします。仕事のやり残しに気が付くこともあります。疲れや忙しさに大変なときもありますが、スタッフどうして声を掛け合い掃除して帰ると達成感が感じられます。

これからも継続していきます。



皆できれいにしようとする意識は、職員個々のモラルやマナーの向上、更には業務の効率化にも繋がりますね。